

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO.103



2014年 4月発行

事務局：医療法人 つばき医院内

〒602-0895 京都市上京区上御霊前町 410

TEL 075-411-1011

FAX 075-411-1020

e-mail office@kyo-psw.org

HP <http://www.kyo-psw.org/>

【第14回(2014年度)総会・記念講演会のご案内】

日時：2014年5月25日（日）

総 会 10:30～12:30（受付 10:00～）

記念講演会 14:00～16:30（受付 13:30～）

（対 談）

PSWの『魂』とは何か

～現在、そして未来の精神保健福祉士へのメッセージ～（仮）

講師：柏木 昭氏 （聖学院大学総合研究所名誉教授

・公益社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長）

講師：荒田 寛氏 （龍谷大学教授

・公益社団法人日本精神保健福祉士協会相談役）

記念講演は公益社団法人日本精神保健福祉士協会京都府支部との共催です。

場所：ハートピア京都（京都府立総合社会福祉会館）

（京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町）

記念講演会は、公益社団法人日本精神保健福祉士協会京都府支部の協力を得て開催しています。詳細は改めてお届けします。

京都精神保健福祉士協会および日本精神保健福祉士協会京都府支部合同企画

【『身近な災害を語る集い in Kyoto』のご案内】

日 時：2014 年 4 月 26 日（土）15:15～18:30（14:45 より受付開始）
会 場：「ジョイント・ほっと」（寺町通り四条下ル東側・業務スーパーの向かい）
話題提供者：宇治市社会福祉協議会 業務係長 土田 恭仁子 氏（予定）
参加費：500 円（お茶&お菓子代）
お申込み：Fax：075-353-2165 e-mail：joint-hot@snow.plala.or.jp
「申込み希望」「お名前」「ご所属」「連絡先」をご記入ください。
会場都合によりできるだけ事前にお申込みいただけると幸いです。
FAX の場合は下記協会ホームページアドレスより申込書を印刷し、お申し込みください。

「災害はいつ起こるかわからない」と意識をしている方は多いと思います。京都でも昨年、一昨年には台風や大雨による水害を目の当たりにしてきました。その際に「大変な状況である」と認識しながらも、どのように行動すればよいのか戸惑った方も多かったのではないのでしょうか？

今回は顔の見える小さな学習会（座談会）を開催し、先の身近で起きた京都の災害を振り返り、当時の戸惑いや不安を語り共有することから個人（協会員）レベルの悩みを浮き彫りにし、協会（組織）として取り組むべきことがらを整理するきっかけにしたいと思います。

はじめに一昨年、宇治の水害でボランティアをコーディネートしながら支援にかかわられた宇治市社会福祉協議会の土田氏より報告をいただいた後、参加されたみなさん自身の経験も語っていただきながら、緊急時の対応やその後の取り組み、ふだんからしておくべきことなどについて考えていきたいと思います。

当日はお茶とお菓子を準備してお待ちしています。ぜひご参加ください。
懇親会：終了後は場所を変えて懇親会も予定しております。お楽しみに！

（災害支援検討委員会）

予告!!【7月心神喪失者等医療学習会のご案内】

テーマ：「地域」から映しだされる医療観察法
日 時：2014 年 7 月ごろを予定しております。（日程・会場 調整中）
内 容 ・医療観察法の概要
・滋賀県の医療観察法病棟内覧会および意見交換会の報告
・動画「医療観察法病棟」上映（約 13 分）
＊入院中にアパート退院に向けて外泊練習をするクライアントなどが登場します

ました。その風景は、私たちが懸命に取り組む「地域生活支援」の課題を映し出し、「地域」について考えるきっかけとなりました。参加者のみなさまも、医療観察法学習会のメンバーも、自分たちの言葉を紡いで考えを深めることが出来ました。

今回は、一泊研修で行なったものと全く同じプログラムを、京都市内で単独で行なうことになりました。一泊研修は参加が出来なかったという方にも、研修に参加したけれどもっと深めたいという方にも、有意義な時間となるように準備をしております。

「医療観察法には直接関わったことがない」という PSW がほとんどだと思いますが、入院治療が終了してから利用するのは一般的な地域生活支援です。今回はその「地域生活支援」に焦点を当てた学習会です。みなさまのご参加をお待ちしております。

(心神喪失者等医療観察法学習会)

【1 月例会フォローアップ研修報告】

テーマ：2013 年度「精神保健福祉士の倫理」

初任者研修フォローアップ研修～センスからスキルへ～

日 時：2014 年 1 月 26 日（日）13:30～16:30

会 場：京都織物卸商健康保険組合 第 3 研究室

講 師：村本詔司先生（神戸市外国語大学名誉教授）

参加者：9 名

倫理について考える委員会では、初任者研修フォローアップ研修～センスからスキルへ～と題して初任者研修の受講を終えた方々と共に改めて「精神保健福祉士の倫理」について学ぶ機会を設けています。今回は 3 年ぶりの開催となりました。講師には、これまでも例会講師をお引き受けくださり、私たちに「倫理的センス」「倫理的スキル」という言葉を教えて下さった村本詔司先生をお招きしました。当日は委員会恒例の模擬事例をグループで深める形で行いました。事例は受講者のみなさんから事前に提出していただいた「ひっかかりのエピソード」を委員会で加工し 2 例の模擬事例に作り直したものを使用しました。事前に提出できた方もできなかった方もグループワークでの他機関の人との出会いやディスカッション、さらに講師のコメントを通して、ワーカーとしての倫理的実践を考える機会になったのではないのでしょうか。研修終了後には参加者全員がセンスとスキルに良い変化を実感して帰ることができました。

委員会では、今後も精神保健福祉士の倫理的視点、「ひっかかることのできるセンス」「掘り下げることのできるスキル」、そしてこの一連のプロセスを繰り返していけるよう研修等を企画していけたらと思っています。この機会に委員会への参加もご検討いただければ幸いです。

(倫理について考える委員会)

【京都精神保健福祉士協会・日本精神保健福祉士協会京都府支部 協力研修報告】

テーマ：精神保健福祉法とソーシャルワーカー～2013 年度改正をふまえて～

日 時：2014 年 2 月 15 日（土）

会 場：京都織物卸商健康保険組合第 3 研修室

参加者：51 名

この研修では、京都府精神保健福祉総合センター熊取谷晶さんの講演「精神保健福祉法改正の概要とポイント」と、宮崎彰造さん（京都市北部精神障害者地域生活支援センター「らしく」）、石崎蓉子さん（同胞の家）、吉田久美子さん（ジョイント・ほっと）、保田美幸さん（いわくら病院）の 4 名による指定発言、質疑応答が行われました。

法改正についての講演では、精神保健福祉法改正の背景や経緯の説明の上で、今回の精神保健福祉法改正のポイント（①精神障害者の医療の提供を確保するための指針の策定②保護者制度の廃止③医療保護入院の見直し④精神医療審査会に関する見直し）について、短時間ながら数日前の厚労省の会議を反映した内容で掘り下げた説明をしていた。とくに医療保護入院の見直しに関して、家族等の同意の運用と市町村長同意について細かく、もう一つの医療保護入院の見直しである退院促進措置についてもアウトラインはしっかりと説明いただいた。続けての 4 名の指定発言の方々は、自分の課題として引きつけた発言をしていただいて、それぞれの PSW としての問題意識の現状報告が聞けたといえよう。

今回の参加者は、病院 PSW が圧倒的多数だった。医療保護入院の見直しがどういうものか理解するべく参加されたものであるとアンケートからもわかり、「今からの課題」と意識されているといえよう。それに対して、地域の相談支援事業所・福祉サービス事業所の PSW にとって今回の改正は、指定発言の宮崎・石崎両氏が触れられたように病院の退院促進措置で地域援助事業者の紹介を受けたり、連携を求められたりした際に実際に対応できるのかという課題が既に明確になっているといえるのではないかな。

今回の改正は、精神科病院内の機能分化や地域保健医療サービス提供というこの間の流れに深くつながっている。また地域で利用者が医療を受けつつ生活をしていく方向に形式的な面では踏み出している。医療保護入院を長期化させないと方策はそういった性格をもつ。しかし新規入院に関しては既にかんがりの入院の長期化回避が見込める状況に来てはいるのであり、かつ今ある地域資源・支援は十分多忙な状況なのである。困難は中長期化して地域との関係が途絶してしまっている入院者の安心できる地域生活の提供のための資源・方策が未だ「細々として」いることや、より重層的なサービスの必要性に対応できていない状況にある。その状況に法はどの程度力となるのか。「退院後生活環境相談員」などで精神保健福祉士が配置され、診療報酬の裏付けを精神科病院が得ることで状況は変わるのかを報告者は考えてしまっていた。医療観察法での「手厚い」退院支援施策が地域精神保健福祉サービスに対して劇的な飛躍をもたらしていないこ

とを引き合いに出しても意味はないであろうが、吉田氏の「受け皿のことを考えない国」という前置きの一言が端的であり、法改正と同様に重みがあるように思えてならない。

とはいえ、病院・地域の一層の連携について精神科病院が一定の責任を負うことを明示した意味を我々は用いなくてはならず、実践展開の足がかりにはなくてはならない。そのように考えると、当日少数派であった地域の福祉サービス事業所等のPSWにもぜひ法改正の内容をとらえていただき、病院PSW等とも意見を交わしていただきたい。そして法施行後の状況について「検証」もお願いしたい。

*参考

日本精神保健福祉士協会ウェブサイト 新着情報欄

改正精神保健福祉法関連新着の通知

<http://www.japsw.or.jp/backnumber/news/2013/0127.html>

更新版の改正精神保健福祉法等の施行に伴うQ&A

<http://www.japsw.or.jp/backnumber/news/2013/qa20140320.pdf>

協力研修実行委員 上田正人（いわくら病院）

【3月例会報告】

日時：2014年3月29日（土）13:30～17:00 会場：NPO 法人 京都マック

テーマ：精神医療・福祉の現場をめぐるツアー 第3弾 地域の事業所編

アディクションセンター京都マック見学会

参加者：30名

現場をめぐるツアー第1弾は診療所を、第2弾は病院を巡って学んできました。今回の京都マックは大宮七条近くのビル3階にあります。例会は4階「京都マックを支える会」のスペースで行われたのですが、どちらのフロアも想像以上に広くて明るくて爽やかな印象です。大通りに面した大きな窓からは穏やかな景色が見渡せ、注ぐ太陽の光は健康的で、かつて教会の一画で作業所をされていた頃のやや地味なイメージ（失礼！）が頭にこびりついていた私には嬉しい驚きでした。と同時に「ここなら女性や若年層であっても足を運びやすいだろうな」と安心できました。

当日は詳しい資料やパンフレットを用意していただき、講義の後、仲間（マックでは利用者をこう呼ぶ）からのメッセージを聴いて、グループワーク、施設見学を行いました。



【講義】「アディクション（嗜癖）」と聞いても、仕事上ほとんど関わりが無いという方もいらっしゃるでしょう。アルコール、薬物など精神作用物質に依存する物質依存、ギャンブルや買い物など行為に依存するプロセス依存、異性との破壊的な関係や共依存など人間関係に依存する関係依存。マックはその全ての依存を支援の対象とし、「病気」である依存症を早期発見・治療を目指し、病気の悪循環を食い止めるために正しい知識を得ること、回復のための方法を学び行動に移すこと、を支援する自助グループ的役割を果たしています。「多くの依存症者がリハビリテーションセンターの存在すら知らずに亡くなっていった」と悔しそうに語るスタッフさんも、実は依存症からの回復者。だからこそ、全ての依存症者の回復を信じ、出会いを大切に、できる限り支援の手を差し伸べようと努力されている様子が痛いほど伝わって来ました。「仲間」との信頼関係を構築することの難しさについても、かつては利用者、今はスタッフという両方の立場を経験しているからこそその迷いや胸の内を赤裸々にお話下さいました。

【仲間からのメッセージを聴いて】PSW になって最初の数年は、私は依存症について頭では理解できたつもりでも、どうしても感情的に受け入れられませんでした。どこかで差別的意識があったのでしょうか。そんな感情に変化を起こしてくれたのが当時聴いた「仲間からのメッセージ」だったと今回の例会で思い出しました。私はメッセージを聴くのが大好きです。彼らは自分の過去の情けない失敗、抱えている後悔や自責の念、何より自身の弱さを隠さずに話してくれます。その勇氣ある語りを聴くと、それだけで自分の中の眠ってしまっている力がムクっと目を覚ますきっかけを与えてもらえる気がします。そして「依存症になった人とならなかった自分の境界ってどこにあるのだろう」と改めて考えさせてくれるのです。実は何も変わらない、同じ弱い人間なのだとメッセージによって気づいてから少しずつ、私の中の「依存症」への偏見が薄れて行って、なんとか今に至ります。

その後のグループワークでも「仕事上では全く関わる機会がないので、いろいろ知れて良かった」「仲間のメッセージを初めて聴いて、素直に思いを語ってくれる勇氣に感動した」「依存症から二次的に引き起こされる児童虐待問題のためにも更に学びたい」等、様々な感想がありました。たくさんの学びと新しい発見を与えていただいた京都マックさんに感謝です。美味しいお菓子やコーヒーの準備まで、本当にありがとうございました！

「つながる」をテーマに企画してきた 2013 年度の例会ですが、単に参加人数が増えたことだけでなく、参加される方の経験年数の幅広さや、PSW 限らない他職種の方々にも参加していただけたことが、何より嬉しいことでした。悩みつつ迷いつつ、今後も新しい企画にチャレンジして行きますので、みなさんも是非研修部にご意見をお寄せくださいね。

(研修部)

【リレー職場紹介】

公益社団法人信和会 京都民医連第二中央病院・精神科デイケア
福田 寛さん

Q1.入職したきっかけと職場のことを教えてください！

私が就職した当時（1988 年）は、精神保健福祉士の資格はもちろんありませんでしたし、大学 4 年生時によりやく第一回・社会福祉士試験のための講義が開設されたような昔でした。

元々教員志望（中学・高校の社会、養護）でしたので、その方面の講義を多く履修しており精神保健福祉分野に関する講義はあまり受けていませんでした。しかし採用試験が残念な結果（笑）となり、大学の就職課で「京都民医連第二中央病院（当時は安井病院）が、精神科デイケアを開設する前提で PSW を募集する」という情報を得て応募したのが入職のきっかけです。

よって入ってから医療・精神関係の勉強を本格的に始めるという、現役の学生さんからみたら驚かれると思いますが、その分、日々新鮮でデイケア開設まで MSW、PSW 両方の相談業務を行っていました。

当院は京都市左京区で 1937 年に開院。現在は回復期リハビリ病棟 51 床を含む 172 床の一般救急指定病院です。法人的には 70 床の介護療養型老健、5 つの診療所群、他にも訪問看護ステーションやヘルパーステーションを展開する等、主として高齢者医療を中心にシフトする中で、精神科は 1968 年～外来診療を開始し、1989 年 12 月に精神科デイケアを開設しました。専任のデイケア・スタッフは医師（兼任）・看護師・作業療法士・PSW で構成され、デイ&ショートケアを実施しております。

Q2. 仕事をする中でやりがい、悩み、うれしいことなどを教えてください！

業務的には日々のプログラム活動の他に、個別援助として生活支援や就労支援を他の機関と連携して行っています。デイケアを通じて利用者（以下メンバー）の方が生活をしていくことに自信を回復し、やってみたいことに挑戦することへの応援が、やりがいではないかなと思っています。ただ当然ながら一直線にいかない事の方が多いので、

様々な関係機関との連携や本人との意思疎通を大切にしています。

反面、病院での管理業務も年々増え、純粋にデイケアでプログラム活動をする機会が減ってきているので、もっとメンバーと接して行きたいのにそれが出来にくくなっているのが最近の悩みです。

Q3.最後に…仕事を通じて PSW として考えていることはどんなことですか？

あらためて考えてみると、PSW の業務は単に患者・メンバーへの医療支援を行うだけでなく、関わりの中で自己の成長と課題の追求を「常に」求められている仕事と思っています。なぜなら物事に対する甘えや判断の弱さは、場面によっては即メンバーへの不利益に通じる事になりますので、どれだけ経験年数を重ねていっても常に自戒して臨まなければいけない課題ではないでしょうか。

特にデイケアは生活場面に接する事が多いので、ソーシャルアクションを含めメンバーが地域での生活者として過ごしやすい環境の構築が重要です。それゆえ PSW という仕事は、業務的な知識以上に応用が効く生活の幅を日々拡大していかなければいけないのだと思います。

これらの経験をさらに強化出来ると思うのが、精神保健福祉士実習の受け入れです。彼らとのやり取りは自分の業務や考え方への自己点検になっているので、業務的には大変な面もありますがその分学びも多くあり今後も続けていきたいと考えています。

【2013 年度第 7 回役員会開催報告】

日時：2014 年 1 月 8 日（水）

場所：まるいクリニック

出席：石崎・大石・大塚・川上・斉藤・下村・知名・西村・橋本・藤井・松本・宮崎

【2013年度第8回役員会開催報告】

日時：2014 年 2 月 12 日（水）

場所：まるいクリニック

出席：石崎 大石 大塚 川上 斉藤 下村 知名 西村 藤井 松本 宮崎 欠席)橋本

詳細はHPにてご確認ください。

<http://kyo-psw.org/member/kapsw/yakuinkai.php?itemid=202>

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

[入会]

泉 洋一さん 所属) 学校法人佛教教育学園 佛教大学 福祉教育開発センター

[退会]

小野幸子さん 所属) なし

池谷翔子さん 所属) 長岡病院 医療社会事業部

安藤由起江さん 所属) 東九条地域包括支援センター

高田亮さん 所属) 京都府中丹保健所

加藤理絵さん 所属) 京都市西部障害者地域生活支援センター「らくさい」

山口明さん 所属) 特定非営利活動法人 パレットハウス

石坂美和さん 所属) 高木神経科医院

安藤佳珠子さん 所属) 京都博愛会病院

[所属機関変更]

畠田裕子さん 所属) 京都大学医学部附属病院

長岡健太さん 所属) 京都博愛会病院

大倉高志さん 所属) なし

山口伊都子さん 所属) 京都市児童相談所

[氏名変更]

藤原 (旧姓: 平田) 千里さん 所属) 京都第二赤十字病院

石崎 (旧姓: 堀田) 蓉子さん 所属) 同胞の家

会員数 3月19日現在 359名

変更届・退会届

『変更届』は 4月20日までにご提出ください！

現在、議案書をはじめとした総会にかかる文書などを5月の連休明けにお手元にお届けできるよう準備しているところです。4月下旬に発送を予定しています。送付物が迷子にならないよう、お届け事項に変更のある方は、4月20日までに変更届のご提出を事務局までお願いします。

「退会願」のご提出はお早めをお願いいたします!!

2013年度での退会をご希望の方は、5月25日までに退会願を事務局までご提出ください。
2014年度総会(5月25日開催予定)以降に退会願を提出されますと、2014年度の退会となり、2014年度会費をお納めいただくことになります。お気をつけください。また、退会される際には未納の会費のお納めをお願いいたします。

変更届・退会願の書式は、会員名簿の最終ページに添付しておりますので、ご活用ください。また、変更届に限り、協会ホームページ(会員ページ)からでもお手続きしていただくことができますので、ご利用ください。

各種届は下記URLよりダウンロードできます。

変更届) <http://www.kyo-psw.org/pswkaiin/media/1/henko.pdf>

退会願) <http://www.kyo-psw.org/pswkaiin/media/1/taikai.pdf>

会費納付 新年度になりました。会費納付をお願いします。

年会費 ¥4,000

きょうと通信の郵送負担金¥1,000 (通信事情でやむを得ない場合に限りです。)

《振込先》 郵便口座 口座番号00960-7-120392 名義 京都精神保健福祉士協会
よろしくお願いいたします。



ほっとひと息コーナー



最近、おーぷんせさみに「手芸部」が誕生しました。「かわいい物を作ろう♪」をコンセプトに、利用者さんたちとシュシュやぬいぐるみを手作りしています。

利用者さんたちも、最初は「できるかなあ…」「むずかしそう」とドキドキな様子。でも、いざやってみると、だんだん形になっていくのが嬉しくて、あっという間に仕上げてしまう人も♪

針と糸を持って、自分の手でかわいい物を作っていく過程がとても楽しくて、心もゆったり穏やかになります。

(NPO法人プラッツ おーぷんせさみ 堀 千春)



【編集後記】

春生まれの私は、桜の可愛らしい花が大好きです。新しいことを始めたくなるこの季節。公私ともに新しい世界が見つかりますように♪

(堀 千春)

新年度、新しい生活に慣れてきましたでしょうか。

(中野友香)